

平成 30 年 上富良野町議会第 1 回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	7 番 北條 隆男	1 クリーンセンター焼却施設について
2	9 番 荒生 博一	1 合葬式施設について 2 観光振興策について
3	3 番 佐川 典子	1 高齢者を情報弱者にしないための施策について 2 協働のまちづくり推進助成金について 3 スマートフォン決済について
4	6 番 金子 益三	1 子どもの医療費無料化について 2 白銀荘の改修について
5	11 番 米沢 義英	1 障がい者の地域生活支援事業について 2 中学生の医療費の無料化について 3 定住移住策について 4 人材の確保の補助制度について 5 給食費の負担軽減について
6	8 番 竹山 正一	1 上富良野町商業振興計画について
7	10 番 高松 克年	1 今年度の除雪対応について 2 演習場の騒音対策と情報開示について

一般質問通告書(平成 30 年 3 月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 7番 北條 隆男</p> <p>1 クリーンセンター焼却施設について</p> <p style="text-align: right;">(町 長)</p>	<p>平成 11 年度から稼働している焼却炉などの機械等は、19 年が経過しようとしているが、今後の稼働計画などを伺いたい。</p> <p>(1) 現在稼働中の焼却施設等は、メンテナンスなどをして後何年使用できるのか。</p> <p>(2) 今後、新しい焼却施設への更新を行う考えはあるのか。</p> <p>(3) 新しい焼却施設への更新の場合、町が単独で行うのか、又は広域で行うことを考えているのか。</p> <p>(4) 町が単独で行う場合、第 6 次総合計画に入れなければ間に合わないのではないか。</p> <p style="text-align: center;">町長の考えを伺う。</p>
<p>2 9番 荒生 博一</p> <p>1 合葬式施設について</p> <p style="text-align: right;">(町 長)</p>	<p>少子高齢化が進行する我が国において、平成 29 年は出生者数 94 万 1 千人、死亡者数は 134 万 4 千人となっており、死亡者数の増加に伴う墓の需要の増加が見込まれる一方、墓の継承者がいないという問題が深刻化しつつある。高度経済成長期以降の核家族化に加え、非婚化、離婚率の上昇等により家族形態は多様化し、墓を代々継承していくことが当然であるといった価値観・文化は崩れ始めている。そこで、次の 3 点について町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 昨今、納骨堂や合葬式施設などが全国的に広がっていることから、墓は子孫が代々管理していくという考え方や家ごとの墓にこだわらない共同利用を許容する意識の広がり、人々の価値観が多様化してきていることが伺える。こうしたライフスタイルの変化に応じた多様な形態の墓を選択できる環境が必要と考えるが、町長の考えを伺う。</p> <p>(2) 少子高齢化、核家族化等の進行により、墓の使用権を引き継ぐことへの不安を抱える人々が増えてきている。承継する者がいなくなることは、墓の無縁化の増加につながり、将来的に町営墓地の適正な維持管理に支障を来すおそれがある。現在の町営墓地の状況は、このような問題がないのか伺う。</p> <p>(3) 合葬式施設がもし町内の景観の素晴らしい場所にできたならば、町民のお墓としてのわかりやすさはもとより、そ</p>

	<p>の場に立った者が、ふるさとかみふらのに対して、様々な思いを巡らせることができ、郷土愛を育むことにもつながる。町民の安心・安全な暮らしができるまちづくりのためにも、将来に負担をかけない合葬式施設が今後必要と考えるが、町長の考えを伺う。</p>
<p>2 観光振興策について (町 長)</p>	<p>当町の観光入込客数の維持・拡大を図り、安定した地域観光関連産業を確立することを目的に策定された「上富良野町観光振興計画」も平成30年度が6か年計画の最終年度となる。観光事業者だけではなく、町民との協働による観光地域づくりを進め、上富良野町の魅力の一層の向上と産業・地域社会の発展を実現するために策定された計画である。国内外問わず訪れていただくお客様に、一年を通して満足いただけるよう、次の4点について町長に伺う。</p> <p>(1) 現在、観光協会で積極的にPR活動を行っている「かみふらの八景」の数か所は、冬期間訪れることができない。当町の課題である冬期間の集客増を目指し、除雪を行い受け入れ態勢を整えてはどうか。</p> <p>(2) 平成28年度予算により、新規事業として行われた「地域おこし協力隊事業」により観光推進員を1名採用したが、昨年11月より不在となっている。地域及び広域観光エリアにおける観光地域づくり活動の促進を図るため、多言語対応能力を有し、地域協力活動や自主的な活動を行える人材として採用し、町の課題解決の促進を図ることを趣旨としていたが、現在不在であるこの状況をどう考えているか。</p> <p>(3) 近年、バックカントリースキー、スノーボードのため、十勝岳エリアを訪れる外国人観光客が増加している。疲れを癒すため、十勝岳温泉の施設や吹上露天の湯を利用されているようだが、温泉施設はまだよいが、吹上露天の湯は外国人観光客には、英語での入浴に際しての説明の看板などが必要と考えるが、町長はどう考えているか。</p> <p>(4) 観光振興計画の戦略に、5つの癒しによる展開の中に「食べて癒される！」の項目で、地域内の食資源を活かしたメニューの効果的な提供、シンボリックな特産品の開発などの実施とあるが、このシンボリック、すなわち象徴的な特産品の開発はどのようになっているか、進捗状況を伺う。</p>

<p>3 3番 佐川 典子</p> <p>1 高齢者を情報弱者にしないための施策について (町 長)</p>	<p>コンピューターなどのインターネットやスマートフォンに代表される携帯電話などは、目まぐるしい発達と普及促進が図られている。現在の高度情報化社会においては、入手できる情報の質や量に様々な格差が広がりを見せているのも事実である。</p> <p>特に、若い世代では、子供からITを使いこなす時代に来ていて、学習やゲームなどでも慣れ親しんでいる。しかしながら、高齢者や機器に不慣れな年代においては、情報通信技術の利用が少ない。情報技術を活用できる層とうまく利用していない情報弱者の間に、社会的・経済的・年代意識的格差が見えない所で拡大している。</p> <p>この「デジタルディバイド」を少しでも減らして行くことが情報格差を生まない社会に通じていくと思われる。取り残されていくような感覚を覚えないように、町として格差を少なくするためにどう考えていくべきか伺いたい。</p>
<p>2 協働のまちづくり推進助成金について (町 長)</p>	<p>まちの「憲法」である上富良野町自治基本条例が平成21年4月からスタートし、協働のまちづくりのための今後における町民・行政・議会それぞれの責任と役割を確認し、自助・共助・公助による参画と協働のまちづくりについての情報共有をした。</p> <p>平成23年6月の定例会において「協働のまちづくりの具体化に予算をつけて欲しい」との一般質問をしたが、その後平成24年8月に「まちづくり活動助成事業」に対する補助金が利用可能になった。現在は、見直しも含め、様々な利用しやすい補助金として町民に利用されつつある。昨年の町の120周年に起因する行事など、利用されたものや進捗状況、今後の課題・利用促進のPRや町民満足度など伺いたい。</p>
<p>3 スマートフォン決済について (町 長)</p>	<p>現在、東京などでの移動に使われるのは現金ではなく、「suica」や「PASMO」の時代になった。携帯電話やスマートフォンでのモバイル決済も当たり前ようになって来ている。当町に訪れる観光客も、今は現金で支払う人は少なくなっているように思われる。</p> <p>特に、スマートフォンでの決済を望む中国人が多いとされる中、今後の観光客のニーズに応え、若い世代のニーズに対応するため、スマートフォン決済の導入に向けての町の対応について伺いたい。</p>

	<p>また、スマートフォン決済についての講演など開催してはどうかと思うが、町長の考えについて伺いたい。</p>
<p>4 6番 金子 益三</p> <p>1 子どもの医療費無料化について (町 長)</p>	<p>現在、町では、就学前及び児童生徒に対する医療費無料化が全ての子育て世帯には対象となっていない現状にある。しかしながら、昨今道内の町村においても全ての子育て世帯に対して医療費の助成を図り、子育て環境の充実や人口減少対策を行っている。そこで、上富良野町の子育て世帯に対して、医療費の助成を行い、医療費負担を無料化にすることが望ましいと考える。また、我が町の多くの子育て世代からもそのような意見が出ている。</p> <p>この間、町が行ってきた施策として、医療費無料化の一部拡充を行ったことに対しては一定の評価を行うが、まだ近隣の自治体と比較すると劣った施策と考える。現在、国も様々な方針で少子化対策を図り、保育や医療といった方策も進めている。これらの時代に対応するためにも、我が町も子どもの医療費無償化を早急に進めることが望ましいと考えるがいかかがか。</p>
<p>2 白銀荘の改修について (町 長)</p>	<p>十勝岳温泉白銀荘は、現在国内外から多くの利用者が訪れている一方で、町内の利用者から不満の声もあるのが現状である。</p> <p>この度、高齢者に対する長寿化の施策として、温浴利用に対する北海道からの補助をいかし、我が町も町内の温浴施設利用に予算が計上されている。しかしながら、町の大きな施設である白銀荘は、受付から温浴施設までの移動が階段であり、移動に関して高齢者には厳しい環境となっている。車いす用のために階段脇に昇降機が設置されているが、車いすを使用しない高齢者が使用するときには館内職員等の立会いのもと使用する必要があり、利便性が低い状況にあり、気軽に使えないとの声も多く寄せられている。そこで、館内の移動にエレベーターの設置が必要と思われる。</p> <p>また、多くの町民に活用していただける施設として平成9年に開設して以来、20年以上も経過している。この間、配管設備やボイラー等の改修が行われており、更に管理者の配慮でトイレのウォシュレット化や脱衣所ロッカーの改修が行われているが、活用される利用者のために施設整備に一定程度の浴場内の改修整備が必要と考えるがいかかがか。</p>

<p>5 11番 米沢 義英</p> <p>1 障がい者の地域生活支援事業について (町 長)</p>	<p>地域生活支援事業は、障がいのある人が地域や社会の中で生活ができる機会を提供事業、必須事業として位置づけており、町においては、富良野圏域の共同事業として実施されている。しかし、現在、町内の事業所もすでに地域生活支援事業を担っている実態が見受けられたため、次の点について伺う。</p> <p>(1) 地域生活支援事業の相談などを町内事業所が受け、実施している実態について伺う。また、富良野の事業所に委託している費用と利用実績について伺う。</p> <p>(2) 地域生活支援事業は、現在、富良野圏域の共同事業として富良野の事業所に委託しているが、町内でもできる事業所があれば、窓口を町内にも開設し、利用者などの支援体制の充実強化をはかる必要があるのではないか。</p>
<p>2 中学生の医療費の無料化について (町 長)</p>	<p>医療費の無料化の拡大を望む声が、全国的にも広がりを見せている。子育て中のお母さんから、子どもの健康の維持と医療費負担のことを考えれば、他の市町村で実施している医療費の負担軽減を中学生まで拡充してもらいたいとの要望が聞かれる。町長は、この住民の声をどのように受け止めるのか。</p> <p>現在、全市町村 1,741 自治体の中で、中学生以上の入院・通院の無料化に取り組んでいる自治体は、約 1,387 自治体となり、富良野沿線の自治体では、富良野市、上富良野町の 2 市町だけとなった。上富良野町は、町民税非課税世帯に対し中学生まで一部拡大をしているが、完全実施には至っていない。他の自治体では他の子育て支援策と抱き合わせで実施し、住民からも喜ばれている。</p> <p>医療費の無料化を中学生まで拡大すべきではないか。</p>
<p>3 定住移住策について (町 長)</p>	<p>少子高齢化の中で、多くの自治体では移住定住策を充実し、人口減少を食い止める政策を進めている。町においても実施しているが、他の自治体から見るとその内容が充実しているとは言えない。</p> <p>総務産建常任委員会では、1月に定住・移住の先進地を視察してきた。島根県邑南町は人口約 11,000 人、飯南町は人口約 5,000 人で、支援策で共通していたのは、専門の支援員を配置し、移住後の仕事や日常生活などの悩みなどを最後まで支援していたこと、空き家改修事業補助、住宅購入時の補助、子育てに対する医療費の無料化、子育てサービスを利用する</p>

	<p>とポイントがもらえる制度などがあり、人口の増に繋がっていたことである。</p> <p>町においては、定住移住策の見直しが必要と考えるが、次の点について伺う。</p> <p>(1) 定住移住促進のためにも、専門員の配置が必要ではないか。</p> <p>(2) U I ターン者に対する住宅の購入及び賃貸住宅に対する家賃補助、空き家バンクに登録した人に改修補助など、具体策が必要ではないか。</p> <p>(3) 移住準備住宅、体験住宅の充実が必要ではないか。</p>
<p>4 人材の確保の補助制度について (町 長)</p>	<p>人口減少の中で、各業種では人材の確保が課題になってきている。平成 30 年度予算の中では、介護事業所等の人材確保の予算が計上されているが、現状では保育士の確保も大変だとの声も聞かれる。また、今後、町の産業を維持充実させるためにも、大学や専門学校へ進学する人に対する補助制度を考える必要があると考えるが、答弁を求めたい。</p>
<p>5 給食費の負担軽減について (教育長)</p>	<p>全国でも子どもの貧困層に対する取り組みが始まっている。生活保護、準要保護等に該当する人は給付が受けられるが、多子世帯で一定の所得がある人には給付は該当しない。</p> <p>町においては、子どもの貧困対策の取り組みとして、住民税所得割非課税世帯を対象に医療費の無料化を中学生まで実施しているが、給食費も無料化に加えてはどうか伺いたい。</p>
<p>6 8 番 竹山 正一 1 上富良野町商業振興計画について (町 長)</p>	<p>「第 5 次上富良野町総合計画」の分野別計画として位置付けられている「上富良野町商業振興計画」(平成 28 年度～平成 30 年度)について伺う。</p> <p>当町においては、現在、人口はかろうじて 10,000 人台を維持しているが、賑わいを形成していた市街地区全般で、生活必需品を扱い商店街を構成していた商店が激減し、町民のニーズに対応しきれない状況となり、町外(中富良野町、富良野市、旭川方面)への購買流出となっている。また、車や J R で訪れた国内外の観光客の皆様に、一目で活力のない雰囲気を印象付けてしまうこの市街地の現状をどのようにとらえ、改善、実現に向け、連携提案していくのか。</p> <p>(1) 個店の魅力づくり</p> <p>① 消費者に選ばれる魅力づくり</p> <p>② 快適に買い物ができる店づくり</p>

	<p>③ 町外からの来訪者に選ばれる魅力づくり等</p> <p>(2) 不足業種の出店促進</p> <p>① 町内で買うことができない商品を扱う業種の出店促進 上記の項目について見解を伺いたい。</p>
<p>7 10番 高松 克年</p> <p>1 今年度の除雪対応について (町 長)</p>	<p>(1) 町の除雪予算と町内の企業体との対応は。6年を経過し、有効な働き、機能を果たしていると思うが、これ以上の効果的な体制を組めるか伺う。</p> <p>(2) 除雪に対しての住民の反応は厳しい状況にあると思われるが、この現状を町民にどのように伝えようと思っているか伺う。</p> <p>(3) 独居老人・高齢者世帯の除雪、戸口排雪の対応と今後の対策について伺う。</p>
<p>2 演習場の騒音対策と情報開示について (町 長)</p>	<p>(1) 砲撃騒音測定がされているが、昨今、爆破処理が行われ、この大きな爆破音がモニタリングされているか伺う。</p> <p>(2) 演習の拡大、飛行訓練の拡大の可能性があるとと思われる。住宅防音地域の拡大、住民の安全確保について伺う。</p> <p>(3) 演習場を持つ自治体において、演習内容、周知、騒音測定値等、独自の情報収集も行われ公開しているが、町は情報の公開を今以上行うべきと思うが、伺う。</p>